

まな板

【板】ヒノキなど、さまざまな種類の木が用いられ、表面がいたむと
 鉋かんばでけずりました。

(表)



(裏)



【足】板ががたつかないように、
 しっかりした足がついています。

まな板は食材を切るときにつかう台です。その歴史は古く、弥生時代の遺跡からも発見されています。少し前まで、まな板は木製で足がついていました。床などに置いて調理していたからです。

立ってつかう流しや調理台が登場してからは足が消え、両面つかえるまな板が登場しました。「まな」とは真魚まなのことで、魚を調理する板という意味です。

～道具とことば～

●まな板の鯉／俎上（そじょう）の魚

相手の意向や運命にまかせるよりほかに方法のない状態のたとえ。

●俎上（そじょう）にのせる

こちらが自由に処理できるような対象として取り上げる。ある物事や人物を取り上げ、それについて論じたり批判したりする。

●三寸まな板を見抜く

（三寸の厚さのあるまな板の裏まで見抜くの意から）眼力の鋭いこと、洞察力のすぐれていることのたとえ。

